

2021 年度 一般入試

第 1 回

国 語

〔注意事項〕

- 1 問題は一から四までです。
- 2 時間は 50 分です。
- 3 下敷き^{したじ}、シャープペンシルおよび電算機つきの時計の使用を禁止します。
- 4 解答は、鉛筆^{えんぴつ}で濃くはっきりと書くようにして下さい。
- 5 開始の合図があるまで問題用紙を開かず、手を触れないで下さい。
- 6 考査中はよそ見をせず、きちんとした態度で行って下さい。
- 7 何か物を落としたら、黙^{だま}って手をあげて下さい。
- 8 他の受験生に迷惑^{めいわく}となるような行為^{こうい}をしないで下さい。

— 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

野枝はかしのき団地に住む小学四年生。夏休み、野枝は近所に住むおばあさんの家に遊びに来ていたひかりと知り合う。団地の住人はお年寄りばかりで、近所の子と遊ぶことも少なかったため、野枝はひかりと仲良くなれるか不安に思う。ある日、野枝とひかりは野良猫の「ボス」や、びっくりするくらい大きなアリをながめ時を過ごす。

「ねえ、ツツジとサツキの見わけかた知ってる?」

とつぜんひかりがたずねてきた。さっきボスの消えていった植えこみをのぞきこんでいる。

「……ええと、葉っぱ?」

大きくてさわるとベタベタするほうがツツジ、小さくてツルツルなほうがサツキ。

「なあんだ、知ってたのー」

大げさに残念がるので、また言ってしまった。

「ごめん」

「だから、なんであやまるのさ」

ひかりは八重歯を見せて A と笑った。

野枝はそこでようやく気づく。ああ、そうか。じぶんはきっと、この新しい友だちに好きになってほしいと思っている。この団地のことも、野枝自身のことも。ひかりは葉っぱを一枚、ぶつんとちぎりとると、さっきのアリをその葉にのせた。アリはすぐにぴょいと逃げていった。

「あれー? くっつかない。おかしいなあ」

ちぎった葉をじぶんのシャツにぺたりとはりつけ、「やっぱりツツジじゃん」と B をとがらす。野枝が B 笑うと、ひかりも笑った。ひかりのかぶっているぼうしは、ツツジの色に似ている。あざやかなピンク色。と、ひかりがふとしんみょうな顔になって言った。

「ねえ。あたしさ、しゃべりすぎかな?」

「うん」野枝はびっくりした。「ぜんぜん」

「ほんとに?」

「うん」

「つかれない?」

「ううん、楽しい」

「そっか」

ひかりは、ほっとしたように言った。野枝も思いきってたずねる。

「……あの、ひかりちゃんは、つまんなくない？ わたし、あんまり、おしゃべり得意じゃなくて」

「まさかあ。ぜんぜん。あたしは、すごいうれしい。野枝ちゃんがいって」

② その言葉に、うれしくてほおが熱くなった。

「よかった。いつも、おとなしすぎって言われるから」

野枝ちゃんはしずかだね、とよく言われる。べつに話すのがきらいなわけじゃない。ただ、ぴったりの言葉を取り出すのに、人よりちょっと時間がかかるのだと思う。

「逆だ、あたしと。あたしはすぐ□から出ちゃう。ジャットと、シャワーみたい」

しぐさと言いかたがおかしくて笑ってしまった。野枝はじぶんもツツジの葉っぱをちぎってシャツの胸に貼りつけた。おそろいのシールみたいだ。

そのときひかりがふと、耳もとに□を寄せてきた。重大な秘密を明かすようにささやく。

「へしずかな子は、魔女に向いてる」

「え？」

「ユキノさんが言った」

③ すぐにはっきりときびすを返す。

「行こう。家。ジュース飲もうよ、のど渴いちゃった」

さっさとかけだすので、野枝もあわててあとを追った。

ひかりのおばあちゃんの家は、二号棟の三階にある。間取りは野枝の家とまったく同じなのに、造りがぜんぶ反対だ。部屋のなかはきれいにかたづいていて、落ちついて居心地がいい。

「あつかったでしょう。ふたりとも汗びっしょり」

おばあちゃんが冷たいカルピスを出してくれた。

家には、おばあちゃんしかいなかった。小さな写真立てのわきに花が添えられていて、そこにおじいちゃんらしい顔が見えたから、ふだんはひとり暮らしなのだろう。ひかりも、ひとりでここに遊びに来ているらしい。

野枝は、テーブルのむかひにすわったひかりの顔をそっとうかがった。さっきの言葉が頭からはなれなかった。「しずかな子は魔女に向いてる」って、どういう意味だろう。なにかお話のなかの一文だろうか。だったら野枝も読んでみたい。

と、ストローも使わずごくごくひと息に飲みほしたひかりが、プハッと満足そうに息をついた。

「あのね、野枝ちゃんね、しずかな子なんだよ」

おかわり、とグラスをさし出しながら言う。

「向いてる？ 魔女に」

「そうね」台所に立ちながらひかりのおばあちゃんが答える。

「あ、あの」野枝は思わず口をはさんだ。「も、もしかして、さっきのって、……ほんとの話？」

「そうだよ」ひかりはこともなげにうなづく。「ね、ユキノさん」

「そうですとも」

「ええっ」野枝のグラスがカタンと音を立てる。

ほんとのこと？ だって、でも。

それに「ユキノさん」って――。

「で、でもあの、――魔女、って」

④最後のほうは小声になる。だってそんなこと、いくら野枝でも四年生で口にするにはちょっと勇気がある。けれどユキノさんというそのおばあちゃんは、おかわりのグラスを置きながらまじめな顔でうなずいてみせた。

「ええ、わたしも修行中ですよ」

野枝はぼかんと口を開けた。

うそ。だって――。

修行中、魔女の？

この、同じ団地の、ご近所の、おばあちゃんが？

部屋のなかを見まわしたけど、ごくふつうの団地の一室にしか見えない。ユキノさんは、いすにすわって C とじぶんのお茶を飲んでいる。

ひかりが手足を D させた。

「いいないなあ。しずかグループずるい。そんなの、あたしはぜったいなれないじゃん」

「そんなことはありませんよ」

ユキノさんは笑ってカップを置くと、魔女修行の心得をひとつ、教えてくれると言った。ひかりと野枝は、よく聞こうと身をのり出す。

「それが魔女でも魔法使いでも、最初にやることはみんな同じ。いちばんはじめの、いちばんだいじな一歩」

ユキノさんはゆっくりと言った。

「よく見ることに。そして考えること」

ふたりに見てにこりと笑う。

「——それだけ？」

ひかりががっかりしたような声をあげる。野枝も同じ気持ちだった。だって、杖つえや、呪文じゅもんや、空飛ぶほうきは？

「あら。これが基本ですよ。そしてつぎに、もっとよく見ることに。角度を変えて、距離きょりを変えて。そしてもっともって考えること。そしてまた見て、また考えること。なんどもなんども。ほらね、おしゃべりしてるひまなんかないでしょう」

「そんなのつまんない。杖は？ ほうきは？」

ひかりの言葉を、ユキノさんはさらりとうけながした。

「百年早い」

「えーっ」

「そうね、たとえばこの缶かん。どんな形をしていますか？」

近くの柵たなから『焼きのり』と書かれた筒つづを出してくる。

「学校のお勉強なら、円柱とか、円筒形えんとうけい、と言うかしら。でも上から見れば丸だし、真横から見れば四角だわ。そしてなかには、なにが入ってる？ さあ考えて」
にこにこしながら目の前に置いてくれるけれど、そこに『のり』^⑤ってちゃんと書いてある。困惑こんわん顔の野枝とひかりを見てから、ユキノさんがパソコンとふたを開けた。

「あっ、クッキー」

なかには大きなチョコチップクッキーがぎっしり入っていた。ユキノさんが焼いたものらしい。お皿にならべてくれながら、こう言った。

「もしも、この缶のなかに入れられて、ふたをされてしまったら？ わたしたちの体が、この底に残ったクッキーくずよりもっと小さかったら？ いったい、

これをどんな形だと思うかしら」

考えていたら、頭がくらくらしてきた。だって、ふたを閉められたら、なかはまっくらなはずなもの。ひかりもほおづえをつき、眉まゆのあいだにぎゅっとしわを寄せている。

目の前にクッキーののったお皿が置かれた。ひかりと野枝は、一枚ずつ手に取ってじっとながめる。ひと口かじって、同時に声をあげた。

「おいしい！」

ユキノさんはにっこり笑って、ふたたびパソコンとふたを閉める。

「魔法まほうはね、そこらじゅうにあるのよ」

問一 A D にあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア くすくす イ ゆったり ウ けらけら エ ばたばた オ さっぱり

問二 部①「しんみょうな」・部③「きびすを返す」の意味として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア	おとなしい	③「きびすを返す」	ア	くり返す
イ	ふしぎそうな		イ	追い返す
ウ	不満そうな		ウ	言い返す
エ	かわいげのある		エ	引き返す

問三 部②「その言葉に、うれしくてほおが熱くなった」とありますが、野枝はなぜうれしくなったのですか。理由を答えなさい。

問四 部④「最後のほうは小声になる」とありますが、なぜ小声になったのですか。最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 本当にはいるはずのない魔女の存在を、ユキノさんがまじめに信じているのかわいそうに思えたから。
イ もう四年生なのに、本当にはいるはずのない魔女の存在を信じていると思われるのは気が引けたから。
ウ 魔女が登場するお話には興味があるけれど、四年生にもなって読みたいというのがはずかしかったから。
エ ひかりがおばあさんのことを「ユキノさん」とよそよそしく名前で呼ぶ様子にびっくりしたから。

問五 部⑤「困惑顔の野枝とひかり」とありますが、野枝とひかりはなぜこのような顔をしているのですか。最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 手作りのクッキーをごちそうしてもらえると思ったのに、ユキノさんがなぜか『焼きのり』と書かれた缶を近くの棚から出してきたから。
イ 魔女修行に必要な呪文や空飛ぶほうきの使い方について教えてもらえると期待していたのに、ユキノさんに「百年早い」と言われてしまったから。
ウ 筒に入っているかきちんと書いてあるのに、その筒を持ったユキノさんから「なにが入ってる？ さあ考えて」と質問されてしまったから。
エ ユキノさんから、「もしも、この缶のなかに入れられてふたをされてしまったら？」という現実にはありえないことを考えるよう言われたから。

問六 部「しずかな子は魔女に向いてる」とありますが、これはどういうことですか。魔女修行の心得をふまえて、次の文の意味が通るよう解答らんに書き入れなさい。

野枝のようにおとなしい子の方が、が得意なので、魔女の素質があるということ。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

人間はしばしば、他人に対して親切に振る舞う。困っている人を見れば手助けし、場合によっては飯を食わせてやったり、交通費を出してやったりもする。私の後輩は大学生の時、屋久島に向かう途中の鹿児島市内で地元のおっちゃんに泊めてもらったという。私自身も、鹿児島港で出会ったおっちゃんに釣り餌をもらい、それでアジを釣ったことがある。カウンターでも興に乗った客が一杯おごったり、おごられたりということはよくある。【ア】

こういった、自分が損をしても他人を利用する行為、つまり「利他的行動」にはなんの意味があるのか？

生物学的に言えば、それだけではなんの意味もない。というか無駄だ。多くの動物は、むやみに攻撃的に振る舞いはしないが、だからって「ぼくの顔をお食べ」みたいなやさしさも発揮しない。基本、無干渉なのである。

考えてみればこれは当然のこと、赤の他人に親切にしたところで、自分の労力が増えるばかりで何も見返りが無い。それだけでも、明確に損である。

そうやって誰にでも「やさしく」していると、調子に乗った連中に食い物にされ、自分はろくに餌も取れずに除け者にされ、やがて弱って死んでゆく。本人がそれで満足ならばいいだろうが、仮に、そういう「お人よし形質」が遺伝的なものだとしても、残念ながらこの形質は次世代に残りにくい。食うや食わずで他人のために働いていては、子どもを残すのが難しそうだからである。

一方、徹底して自分のことしか考えない、利己的な奴はどうだろう。

他人にどう思われようが屁でもなく、ひたすら楽をして、たくさん食べて、自分の長生きと子孫の繁栄だけを願う個体。こういう奴は、結果として子孫をたくさん残せる。【A】とはこういうことか。

① ということ、進化的に考えれば、基本的に、動物は他人にやさしくなれないのである。

では、人間は例外なのか？というところ、そうでもない。集団性の動物の場合、これまたややこしいジレンマがあるからだ。

集団を作るのは、単独で生きるより集団のほうが楽だからである。例えば外敵に対する防衛力を上げるとか、効率よく餌を見つけるとか、そういう点だ。

この場合、集団のメンバーが死んでしまっただけは困る。となると、「こいつを助けることで自分にそれ以上の見返りが期待できるなら、助けてもいい」という計算が成り立つ。あるいは、「今日親切にしておけば、そのうちこいつが俺に親切にしてくれるだろう」という計算もできる。ひょっとしたら親切にもらうばかりでちっとも借りを返してくれないかもしれないが、そういうヒドい奴だとわかったら、もう縁を切れればいいのだ。

こういう恩返しを「互恵的な利他的行動」と呼び、いくつも例がある。例えばチスイコウモリにも見られる。

チスイコウモリというとなんだかもう恐ろしいものの代表のように思うかもしれないが、吸血できずに空腹なままにいる仲間に、口移して血を分けてやる親切さを発揮する。もちろん、しょっちゅうやるわけではないのだが、お互いに毛づくろいをするなど、仲の良い相手に分け与えることが多いという。仲の良い相手というのは、頻繁に顔をあわせる個体と言い換えることもできて、そういう間柄なら見返りが期待しやすいわけだ。【イ】

親切といえ、ワタリガラスも非常に親切的な鳥である。彼らは一人で食べきれないような餌を見つけると、大声で鳴き叫び、仲間を呼び集める。一人で食べればいいものを、わざわざ、みんなでシェアしようとするのである。

ところが、この行動はどうかや親切ではない、ということがわかっている。餌が少ないとシェアしないで自分だけで食べてしまうのだ。

また、ワタリガラスは密度が低く、移動性が大きい。縄張りを持たずに広い範囲をうろついている若い個体同士の場合、次に出合うのがいつになるかわからない。となると、恩返しのお機会がない。餌をシェアしてやった相手に何年もたつてからまたまた出合い、しかもその時に自分が腹ペこで、おまけに相手は都合よくご馳走の前に居座っていた、なんてことが、そうそうあるとは思えない。【ウ】
では、なぜ？

研究者が観察していると、ワタリガラスは餌が多くても、仲間を呼ぶ時と、呼ばない時があることがわかった。仲間を呼ばない時は1羽か2羽だ。一方、仲間を呼ぶと10羽、時には何十羽もやって来る。

タネ明かしをすると、仲間を呼ぶ奴は縄張りを持っていない若い個体で、仲間を呼ばない1羽か2羽というのは、そこに縄張りを持っているペアなのである。縄張り持ちは経験豊富で強いから、若い奴が来ると追い出してしまふ。そこで若造は仲間を呼び集め、集団で殴り込むことで、追い払いたくても追い払えない状況を作り出す。

当然、みんなで食べれば自分の取り分は減るが、意地悪な縄張り個体に追い散らされていたら一口も食べないのだ。少しでも食べられる方がマシである。

これが、この行動を研究したバード・ハインリッヒの結論だった(この人は生態学者というべきか行動学者というべきかナチュラルリストというべきか、いろんな研究をしている)。つまり、これはワタリガラスがやさしくて協力的な鳥だからではなく、攻撃的で強欲な鳥だからこそ発達した行動だったわけである。

「B」ということわざがある。

これは「他人に情けをかければ回り回って自分のところに返って来て、結局は自分の為になるのだ」という意味だが(決して「やさしさは人のためにならない」という意味ではない)、動物の「やさしさ」は、だいたいこのパターンである。

ただし、ごく最近発表されたいくつかの論文によると、動物に本当の「お人よしな」優しさがあるかもしれないことが示された。まずはヨウム(オウムの一種)だ。まず、ヨウムを入れた鳥かごを隣り合わせに置く。このヨウムはトークン(代用硬貨)を入れると餌が出てくることを学習している。もし1羽の前に「自販機」がない場合でも、ヨウムは隣の相手にトークンを渡して餌を出してもらい、それを分けてもらうという行動を見せる。

それどころか、自分には餌が渡されない状況であっても、隣人が空腹な場合はトークンを渡す。これはまさに、「自分はいいからこれで何か食べな」という、チャリティーみたいなものである。【エ】

(松原始『カラスはざる賢い、ハトは頭が悪い、サメは狂暴、イルカは温厚って本当か?』より(設問の都合により、書体を改めたところがあります。))

問一 A・B にあてはまることわざを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 情けは人のためならず イ 三つ子のたましい百まで ウ 憎まれっ子世にはばかる エ 親の光は七光り

問二 部①「進化的に考えれば、基本的に、動物は他人にやさしくなれないのである」とありますが、これはなぜですか。本文中の言葉を用いて説明しなさい。

問三 部②「そういう」が指し示す内容を文中から探し、五字以内で書き抜きなさい。

問四 部③「彼らは一人で食べきれないような餌を見つけると、大声で鳴き叫び、仲間を呼び集める」とありますが、これはなぜですか。理由として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 餌をひとりじめするのではなく、餌のありかを若い個体同士で教えあい、助け合う方が集団として生存の可能性が高くなるから。

イ 仲間をたくさん集めたほうが、たとえ一人当たりの食べる量が減っても他の強欲なカラスに横取りされる心配が少なくなるから。

ウ 一人では食べきれず、そのまま放っておくと腐ってしまうので、ひとりじめするよりも皆に分けたほうが全員が満足できるから。

エ 巣立ったばかりで餌が取れない場合は先輩のカラスが餌を分けることがあり、同じことを若いカラスにしてあげたいと思ったから。

問五 次の文は、文中の【ア】と【エ】のどこに入りますか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

つまり、彼らはおごったりおごられたりするチャンスがあまりにも少ないので、誰にでも大盤振る舞いすることは、自分の有利にならないだろうと考えられた。

問六 本文の内容を説明したものととして、最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人間は自分が損をしてでも他人を助けることがあるが、動物は徹底的に自分のことや子孫を残すことのみを考え行動する。

イ 動物は集団になると餌の取り分が減り、生き残る可能性が低くなるので、群れではなく単独で生きる方が効率が良い。

ウ ワタリガラスは親切な鳥と言われており、縄張りの中で餌を取れない鳥に餌のありかを進んで教える性質を持っている。

エ 動物は基本的には自分の利益しか考えないが、餌をわけ与えるヨウムのように他の個体を思いやる例も存在する。

三 次の文の全体を見て、――部が正しければ○を、間違っていれば×を書きなさい。×の場合は、正しく直した答えを解答らん(らん)に書き入れなさい。

- 1 わたしの夢は、アメリカに留学して、英語を上手に話せるようになりたいです。
- 2 このえんぴつは、なめらかに書ける。
- 3 はい、わたしは、山田と申します。
- 4 話を聞くときは、私語をしたり、よそ見をしてはいけません。
- 5 ぼくがねぼうしたのは、時計がこわれていたからです。

四 次の――部のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 コウバイが咲きほこる。
- 2 桃のセックを祝う。
- 3 高原の湖でヒシヨをする。
- 4 辺り一面のムギバタケ。
- 5 今年は久しぶりのダントウだ。



